

令和3年度 堺リベラル高等学校 学校評価

1. 目指す学校像

建学の精神である「愛と真実の教育」「情操豊かな女子教育」を基本とし、新しい時代にはばたく力、生きる力を育む女子教育の理想をめざす

1. 明朗な女性の育成
2. 知性豊かな女性の育成
3. 実行力のある女性の育成

2. 中期的目標

1. 特色授業や行事を通して専門性を高める

◆本校独自の特色授業や行事を充実させる。

ア「ダンス」「楽器」「演技」「声優」「イラスト」の身体表現科目を中心に、「スピーチ」「ディベート」「プレゼンテーション」などの言語表現を学習し、自己表現力、コミュニケーション力を育み、表現力豊かな女性の育成を目指す。

※自己評価アンケートで、表現教育科目の授業で専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める達成度を **90%**にする。

イ 表現教育で培った力を発表する行事を設ける。発表の場所や鑑賞してもらう人などの設定を変え、さまざまな環境で自己表現力と専門性を高める。特に修学旅行先のハワイでは、「海外ライブ」としてステージの発表を披露し、海外で現地の方を含めてたくさんの方の前で自己表現する。また3年次の卒業制作発表(リベラルライブ)では3年間の表現教育集大成を保護者や外部からの観客の前で披露する場を設ける。

※自己評価アンケートで、発表する行事を通して専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める達成度を **90%**にする。

2. 学習環境の整備と自分の目指す進路の実現

◆1年次は習熟度別クラス編成をおこない、効率性の高い授業展開を目指す。また通常授業だけでなく、「早朝テスト」や「放課後補習」、「外部模試対策」、「長期休暇の講座」「外部予備校講師による勉強塾」など様々な学習環境を整備し、生徒に学習する場を与える。そして学習習慣を定着させることで学力向上につなげ、一人一人の進路の実現をする。

ア 家庭学習の習慣が不十分であったり、学校以外に学習する場がない生徒がいる中、「早朝テスト」や「放課後補習」を活用し、勉強が苦手な生徒にも学習する場を与え、学習習慣を身につけさせる。また、勉強が得意な生徒の力を伸ばすために、「外部模試対策」「長期休暇の講座」などの機会を設け、大学進学を目指す生徒のバックアップに力を入れる。

※令和3年度卒業生の進路決定率を **90%**にする。

イ 「外部予備校講師による勉強塾」では、国公立大学・難関私立大学の進学実績を上げるために放課後7・8・9限目に外部の予備校講師による受験対策講座を実施する。今年度も対象学年を3学年全てに拡大し、早期から大学進学に向けた応用力の育成を図る。

※「勉強塾」参加生徒の希望する進路の実現率を **85%**にする。

ウ 一人一台のタブレットを持ち、情報化社会に対応するための様々な取り組みやアクティブラーニングなどの授業に対応させていく。一方、教員もタブレットやプロジェクターを利用したICT教育に取り組み、多様化する学習に挑戦する。

※タブレットやプロジェクターを利用したICT教育の達成率を **70%**にする。

3. 身だしなみ・マナー指導による女子教育

◆生徒のマナー意識を高め、頭髪・服装指導を徹底し、身だしなみを整える。

ア マナー教育として「挨拶・頭髪服装」を大切にし、身だしなみが整い、マナーの良い生徒を育成する。

※自己評価アンケートのマナー意識の達成度を **80%**にする。

イ 身だしなみ指導として、頭髪・服装指導を徹底する。自分の母校となる学校の制服にプライドを持たせ、身だしなみを整えることにより、より本校の魅力を示す。

※自己評価アンケートの身だしなみ・服装・頭髪指導の達成度を **80%**にする。

<教職員>

☆特色授業や行事を通して専門性を高める

- ① 「専門的な授業で生徒の専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める」という項目の達成度は全体平均で **86.7%** となり、昨年度(81.8%)を少し上回る評価となった。新型コロナウイルスの感染拡大 2 年目も、通常授業や行事、クラブ活動が実施できなかった時期があったが、コロナ初年度で培った対応力で昨年度とほぼ同等の教育活動を維持できたといえる。コロナ渦でもできることをみんなで模索し、それを実現する過程において生徒も教員も普段以上に相手を思いやって成長できた一年となった。
- ② 「表現教育の場や行事において、専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める」という項目においては、**88.9%**の達成度であった(昨年は **72.7%**)。新型コロナと向き合う 2 年目は、コロナ初年度から培った対応力で、単に活動や行事を中止するだけでなく、コロナ渦でもできることを模索した取り組みが多く実施された。残念ながら高 3 の修学旅行こそ中止を迫られたが、体育祭や学園祭、3 年次に外部で行う卒業制作発表(リベラルライブ)等は感染防止対策を徹底した上で、何とか実施できたことは非常に良かった。生徒が涙して喜ぶ姿を見ると、3 年間取り組んできた表現教育の成果に誇りを感じる、そんな時間を生徒たちが提供してくれたように思える。
- ③ 「クラブ活動において、専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める」も **80%**の達成度(昨年度は **63.6%**)で、②同様に新型コロナウイルスへの対応力を生かした各クラブの活動の成果が、昨年度の評価を大きく上回った要因だと考えられる。
- ④ ①～③のような結果に至った一番の要因は、やはり新型コロナウイルスへの 2 年目の対応力が大きな成果といえる。教員がコロナ渦でもできる事を考え、子どもたちに必要な教育の環境をつくったり、発表する場を提供できたことは評価に値する。それを裏付けるように、アンケートの「指導方法の工夫や改善により、生徒に興味をもたせる」「学校行事における表現教育の成果を発揮させる」の達成度は **89.4%**と、コロナ渦にもかかわらず教員一人一人が考え、工夫したということに達成感を得ているといえる。

☆学習環境の整備と自分の目指す進路の実現

- ① 昨年度に引き続き「早朝テスト」「長期休暇の講座」「外部模試対策」「外部予備校講師による勉強塾」を実施し、学習環境の充実を継続させてきた。この結果、「個々に応じた学習環境の整備により生徒に学習する場を与えられた」については、**70%**と昨年度(**75%**)より少し減少したものの、平成 28 年度の 43%から見ると、この 6 年間で高い達成度を維持できている。リベラル高校開設から早い段階で日常的な学習環境を大きく改革することで学習効果の向上を図ることができている。その結果、新型コロナウイルスの感染拡大 2 年目でも、「授業を大切にさせる」という項目においては **88.9%**(昨年度 **83.3%**)を達成することができた。
- ② 一方、「学習習慣を定着させる」についての達成度は **50%**(昨年度は **66.7%**)と大きく減少した。昨年度に引き続き臨時休校があったものの、日常的な学習の取り組みはコロナ初年度より安定化を図れたが、コロナへの危機感が初年度より弱まる中、一度乱れた学習習慣を維持させることに苦慮したことがこの数字につながったと考える。また、学校内での学習環境は整いつつあるが、学力の二極化が進む傾向において、勉強に苦手意識をもつ生徒の家庭における学習習慣の定着にはまだ時間が必要だと考える。入学時の学力差を日々の学校内学習では補ってきたものの、中学時からの環境の変化に上手く対応できなかった生徒もいたことで全体平均として目標に及ばなかったといえる。幅広い学力層をもつ生徒に対し、教員側の求めるものが高くなってきているので、それに相応する生徒へのアプローチを考えないといけない。生徒一人一人に合った学習環境の追求とともに、今できなくてもこれからできるようになることを目標に、中身を充実させていくことが課題である。
- ③ 開校時より一人一台のタブレットを持たせ、授業や行事、家庭学習での活用を推進してきた。また教員にも一人一台のタブレットを配布し、プロジェクターを利用した授業の取り組みやタブレットによる連絡事項の管理を継続してきた。さらに学習動画スタディサプリも導入して、家庭学習の充実を図ってきたが、ICT 教育の活用の達成度は **55.6%**(昨年度 **61%**)と昨年より数字は低下した。ICT 教育への一定の慣れ・定着が進んだが、さらなる新しい取り組みに挑戦する機会が持てなかったように考える。確かに新型コロナウイルスの感染拡大の影響を埋め合わせる、日常の学習には力を入れることができたが、学習の穴が生まれないように努力し、2 年目の大学受験への追い込みを力を入れることに精一杯で、多様性のある授業について十分議論したり、研修する機会がなかったことが原因といえる。
- ④ 「生徒に進路目標を設定させる」については **88.9%**と昨年度(**63.6%**)を大きく上回った。また、「生徒の希望する進路を実現させる」も **77.8%**で昨年度(**70%**)を少し上回った。大学入試 2 年目の挑戦は昨年度の経験を生かし、早い段階から目標設定を行うことができたといえる。また一人一人の進路希望に合わせた効果的なサポートが功を奏したといえる。新大学入試への理解と周知、そしてそれに対する情報の共有と対応力の早さがこの結果につながった。昨年度のリベンジを果たせたといえる。
- また、今年度の 3 年生の進路決定率は **88.7%**で(昨年度は **76%**)で目標値をほぼ達成できた。未達成の理由は国公立大学を目指す浪人が 2 名、芸能活動をはじめとするフリーターが 4 名となったためである。一方、勉強塾に参加した生徒の進路実現率は **100%**(10 名が対象)であった。昨年度に引き続き、現役で国公立大学に 1 名が合格し、難関私立大学にも多くの合格を出せたことは、現場教員と勉強塾の先生方との大きな成果だったといえる。

☆身だしなみ・マナー指導による女子教育

- ① 昨年に引き続き、マナー教育「挨拶・頭髪服装」を指導方針として取り組んだ。そうした中で、マナー指導の工夫・改善については **70%**と昨年度(**60%**)より少し上昇したが目標値にあと一步届かなかった。定期的な頭髪服装指導などを継続できたが、高校生のマナー教育に不十分さを残した。一方、「生徒のマナー意識を高める」も **70%**と昨年度(**52%**)を大きく上回った。社会に出る最後の教育現場という意識で頭髪服装やマナーについて今後もしっかり指導を継続していきたい。
- ② 身だしなみ・頭髪・服装指導を徹底することに関しては、**70%**と昨年度(**62%**)と少し上昇した。堺リベラル高校開設により、頭髪服装で注意する生徒が減少してきていることは素晴らしいことであると考えられる。①とともに、新しい取り組みによる意識の改善を、次年度以降は 1 年次より計画的に指導を行いたい。

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
1. 特色授業や行事を通して専門性を高める	ア 特色授業の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 「ダンス」「楽器」「演技」「声優」「イラスト」の身体表現科目を中心に「スピーチ」「ディベート」「プレゼンテーション」などの言語表現法を学習し、自己表現力、コミュニケーション力を育み、表現力豊かな女性の育成を目指す。 	ア自己評価アンケートで、表現教育科目の授業で生徒の専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める達成度を 90% にする。	ア「ダンス」「楽器」「演技」「声優」「イラスト」の身体表現科目を中心に「スピーチ」「ディベート」「プレゼンテーション」などの言語表現法など専門的な授業で生徒の専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高めるという達成度は全体平均で 86.7% (○)であった。昨年度から少し上昇した原因は、新型コロナウイルス感染拡大への2年目の対応力があげられる。
	イ 発表する行事の設定	<ul style="list-style-type: none"> 発表の場所や鑑賞してもらう人などの設定を変え、様々な環境でより自己表現力と専門性を高める。特に修学旅行のハワイでは、「海外ライブ」としてステージの発表を披露し、現地の方含めてたくさんの人の前で自己表現する。また、3年間の表現教育集大成としての卒業制作発表(リベラルライブ)を成功させる。 	イ自己評価アンケートで、発表する行事を通して生徒の専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める達成度を 90% にする。	イ発表する行事を通して生徒の専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高めるという達成度は 88.9% (○)でほぼ目標値を達成した。コロナ渦でもできることを模索した取り組みが多く実施された。残念ながら高3の修学旅行こそ中止を迫られたが、体育祭や学園祭、3年次に外部で行う卒業制作発表(リベラルライブ)等は感染防止対策を徹底した上で、何とか実施できたことは非常に良かった。
	ウ ICT教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人に一台のタブレットを持たせ、情報化社会での様々な取り組みやアクティブラーニングなどの授業に対応させていく。一方、教員もタブレットやプロジェクターを利用したICT教育に取り組み、多様化する学習に挑戦する。 	ウタブレットやプロジェクターを利用したICT教育の達成率を 70% にする。	ウICT教育の活用の達成度は 55.6% (▼)と目標値を大きく下回った。ICT教育への一定の慣れ・定着が進んだが、さらなる新しい取り組みに挑戦する機会が持てなかったように考える。確かに新型コロナウイルスの感染拡大の影響を埋め合わせる日常の学習には力を入れることができたが、学習の穴が生まれないように努力し、2年目の大学受験への追い込みをするのが精一杯で、多様性のある授業について十分議論したり、研修する機会がなかったことが原因といえる。
2. 学習環境の整備と自分の目指す進路の実現	ア 学習環境の整備と進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の習慣が不十分であったり、学校以外に学習する場がない生徒がいる中、「早朝テスト」や「放課後補習」を活用し、勉強が苦手な生徒にも学習する場を与え、学習習慣を身につけさせる。また、勉強が得意な生徒の力を伸ばすために、「外部模試対策」「長期休暇の講座」「外部予備校講師による勉強塾」などの機会を設け、大学進学を目指す生徒のバックアップに力を入れる。 	ア令和3年度卒業生の進路決定率を 90% にする。	ア「早朝テスト」「長期休暇の講座」「外部模試対策」「外部予備校講師による勉強塾」「習熟度別放課後補習」などを実施して学習環境の整備を充実させた。その結果、「個々に応じた学習環境の整備により生徒に学習する場を与えられた」については、 70% (昨年度75%)となった。また「授業を大切にさせる」という項目においては 88.9% (昨年度83.3%)となった。そうした中で、今年度の3年生の進路決定率は 88.7% (○)で目標値をほぼ達成できた。
	イ 勉強塾からの進路実現	<ul style="list-style-type: none"> 「勉強塾」では、国公立大学・難関私立大学の進学実績を上げるために放課後7・8・9限目に外部の予備校講師による受験対策講座を実施する。昨年度に引き続き、対象学年を3学年全てに拡大し、早期から大学進学に向けた応用力の育成を図る。 	イ勉強塾に参加した生徒の希望する進路の実現率を 85% にする。	イ勉強塾に参加した生徒の進路実現率は 100% (◎)であった。昨年度に引き続き、現役で国公立大学に1名が合格し、難関私立大学にも多くの合格を出せたことは、現場教員と勉強塾の先生方との大きな成果だったといえる。

中期的 目標	今年度の 重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
3. 身だしなみ・マナー指導による女子教育	ア マナー教育への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> マナー教育として「挨拶・頭髪服装」を大切にし、身だしなみが整い、マナーの良い生徒を育成する。 	ア自己評価アンケートで生徒のマナー意識を高める達成度を 80% にする。	<p>ア 生徒のマナー意識を高める達成度が 70% (△) となった。またマナー指導の工夫・改善については 70% (△) であった。定期的な頭髪服装指導を昨年に引き続き継続しておこなうことができた。一方で目標値を下回っている原因として、新しい取り組みが提案できていない現状があげられる。</p> <p>しかし、生徒のマナー意識は年々向上している。校内だけでなく校外でも生徒からの挨拶が当たり前ようになってきている。先輩が良い手本になってきている証拠である。運動部員以外の生徒たちも、気持ちの良い挨拶をすることができる。社会に出る最後の教育現場という意識で今後も取り組んでいきたい。</p>
	イ 身だしなみ指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ指導として、頭髪・服装指導を徹底する。自分の母校となる学校の制服にプライドを持たせ、身だしなみを整えることにより、より本校の魅力を示す。 	イ自己評価アンケートで生徒の身だしなみ・頭髪・服装指導を徹底する達成度を 80% にする。	<p>イ 生徒の身だしなみ指導を徹底する達成度が 70% (△) で、目標値には届かなかったが昨年度よりは上昇した。アの内容とも関連するが、堺リベラル高校の開設で身だしなみを注意される生徒が減少している現状がある。</p> <p>次年度以降は1年次より計画的に指導を徹底していくことが必要である。マナー意識と同様に年々身だしなみ意識も高くなっては来ている。達成度については、目標数値を超えることができていないので、更に、自分の学校を大切に、より自分の母校にプライドを持たせ、身だしなみから整える意識を醸成していく。そして本校の制服の良さや魅力も示していきたい。</p>